

開講年次・時期	1年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	必修・選択	必修	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NK210	科目名	発達心理学	担当者名	櫻本 和也
授業の概要	幼児教育・保育現場で寄り添う子どもたちの発達段階を中心に、発達心理学に関する基本的な知識の習得を目指す。加えて学童期以降の各発達段階を概観することで、生まれてから息をひきとるその瞬間まで発達する人間の“生涯発達”について、自らをモデルとしてその理解を深める。				
科目の到達目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の知識を踏まえ、「生涯発達」の視点に立って人間の発達を捉えることができる。 2. 子どもの発達に係る心理学の基礎知識を習得し、養護及び教育をはじめとした相互的な関わりを実践することができる。 3. 対人援助職を視野に入れる自身の背景を顧みること、青年期に直面する発達課題に主体的に挑むことができる。				
DPの観点	③柔軟性(10)、⑤社会性(10)、⑥専門知識・技能(40)、⑦思考力(20)、⑩問題解決力(20)				
授業時間外学修 (予習・復習)	予習:授業内容を事前に確認した上で、自分自身ならびに家族をモデルとして学習内容を捉える(毎回、2時間程度)。 復習:資料を基に学習内容を振り返り、各理論や考え方を日常生活に活かすべく復習する(毎回、2時間程度)。				
フィードバックの方法	理解度調査と講義内容への質問・要望をコミュニケーションシートとしてロイロノートに提出。各回ごとに管理し、フィードバックと振り返りの実施に活用する。				
単位認定の要件	講義内での課題提出、および中間と期末のレポート課題で単位修得の基準を満たすこと。				
評価の方法・割合 (%)	講義内のグループワークと課題(20%)、提出物(25%)、中間・期末レポート(55%)で総合的に評価する。				
履修上の注意事項	自分の考えや意見を共有する機会が多いため、積極的かつ自発的な姿勢で取り組まれることを望む。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			ガイダンス:発達心理学とは	⑤、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
2			発達心理学の基本概念:「生涯発達」と発達の規定要因	⑤、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
3			代表的な発達理論の概観:ピアジェの発生的認識論	⑤、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
4			胎生期・新生児期の発達:赤ちゃんのコンピテンス	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
5			乳児期の発達:アタッチメント・愛着の形成	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
6			幼児前期の発達:自律性	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
7			幼児後期の発達:自発性	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
8			中間課題	⑥、⑦、⑩	レポート
9			学童期の発達:勤勉性	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
10			思春期の発達:マージナルマン	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
11			青年期の発達:アイデンティティ	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
12			成人前期の発達:子どもとの出会い	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
13			成人後期の発達:子と親との関係	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
14			老年期の発達:子どもと高齢者との関わり	③、⑥、⑦、⑩	コミュニケーションシート
15			発達心理学のまとめと期末課題	⑥、⑦、⑩	レポート
期末試験			中間と期末のレポート課題を実施する		

使用テキスト	資料・レジュメを配布する。
参考文献 参考URL	藤永保・内田伸子・繁樹算男・杉山憲司(2018). 最新心理学事典, 平凡社 他, 適宜紹介する。
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--